



**三和油化工業株式会社**

東証スタンダード市場／名証メイン市場

証券コード：4125

# 2023年3月期 決算説明資料

2023年5月12日

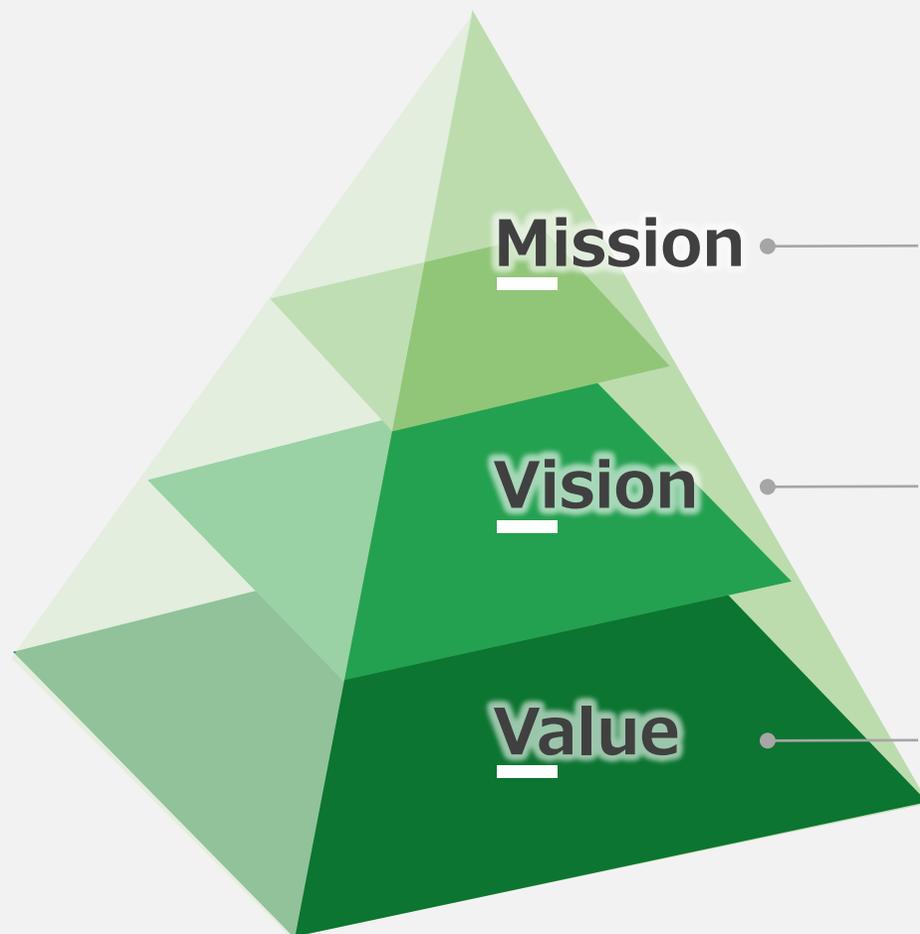


1. 会社概要	P. 3
2. 2023年3月期 決算概要	P.12
3. 2024年3月期 業績予想	P.26
4. 中期経営計画	P.32



# 会社概要





我々は何のために  
存在しているのか

「環境ニーズを創造する」をテーマに  
事業活動を展開し、持続可能な  
社会の実現への貢献

我々はどこに行こう  
としているのか

社会から必要とされる  
環境リーディングカンパニー  
を目指す

我々は何を大切に  
しているのか

社会からより信頼されるよう、  
「責任」・「挑戦」・「創造」を根幹に、  
与えられた役割を常に考え、  
「誠実に、確実に」やり遂げる

## ■ リユース・リサイクル・化学品の3つが当社の主力事業

### PCB事業

**4.7%** (22年3月期 : 6.3%)

PCB特別措置法に基づきPCB含有廃棄物の適正処理を行うためのソリューションを提供

### 自動車事業

**14.0%** (22年3月期 : 14.5%)

自動車メーカー・自動車部品メーカーなどに潤滑油や金属加工油などの油剤製品、工業用洗浄剤及び自動車製造工程で使用される各種副資材を製造・販売

### 化学品事業

**32.7%** (22年3月期 : 30.7%)

有機化学品や無機化学品及びそれらを精製・加工した化学品の製造・販売及び受託加工

### リユース事業

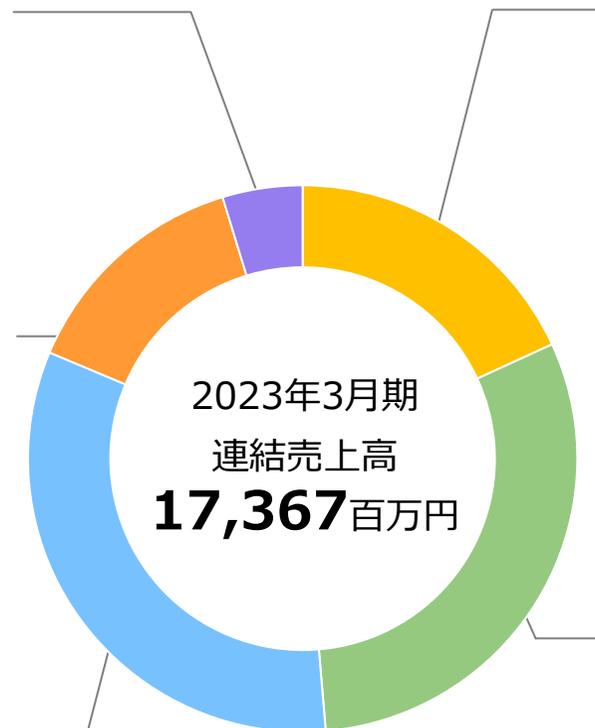
**18.1%** (22年3月期 : 18.3%)

使用済み廃溶剤、廃酸、有用金属等を含む産業廃棄物などを中間処分・再資源化し、元の用途や素材として再使用

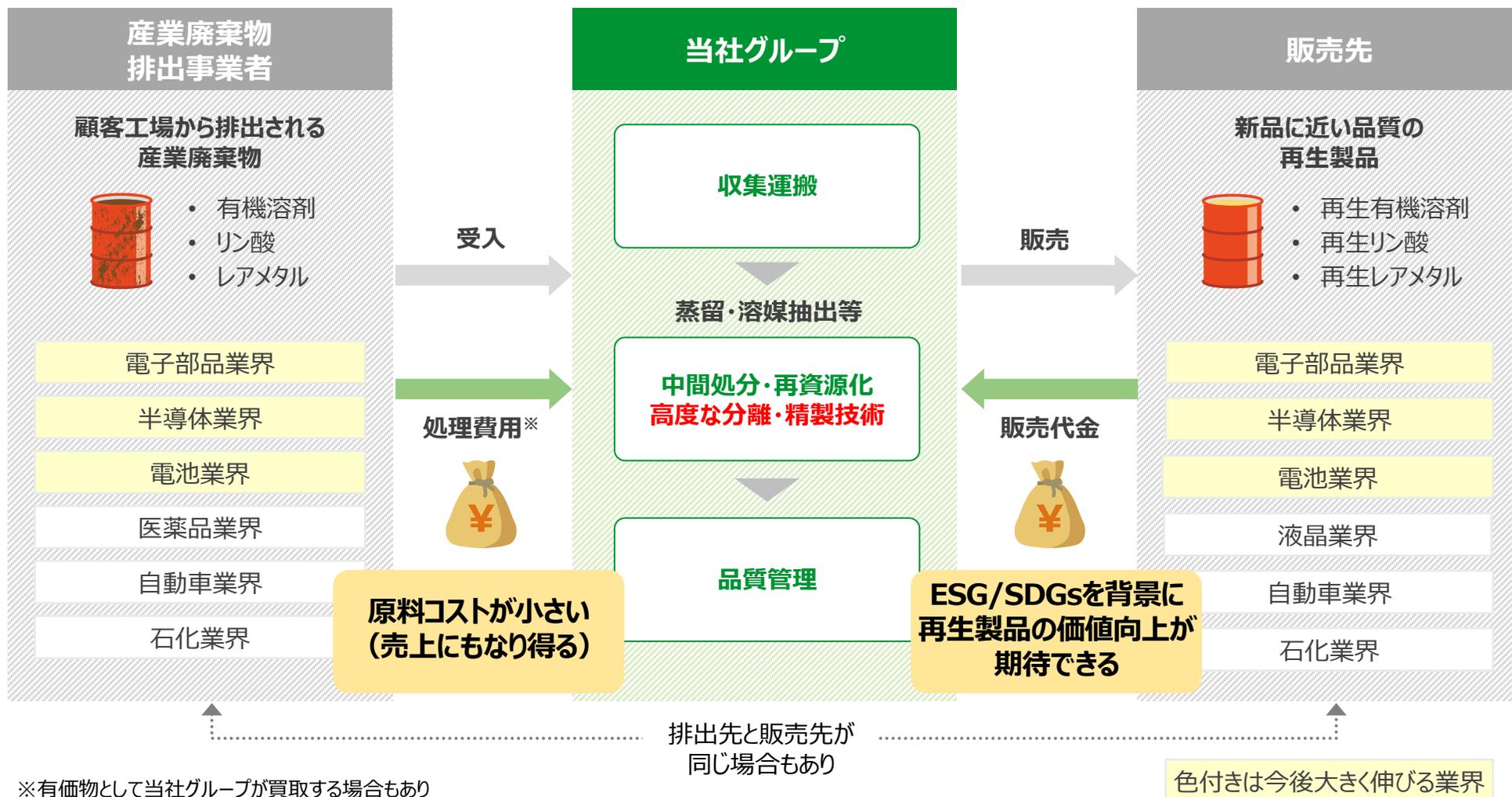
### リサイクル事業

**30.5%** (22年3月期 : 30.2%)

使用済み廃溶剤、汚泥、廃プラスチック類などの産業廃棄物を中間処分・再資源化し、再生燃料やセメント・石灰・鉄鋼の副原料及び副資材としての2次利用を中心に再資源化

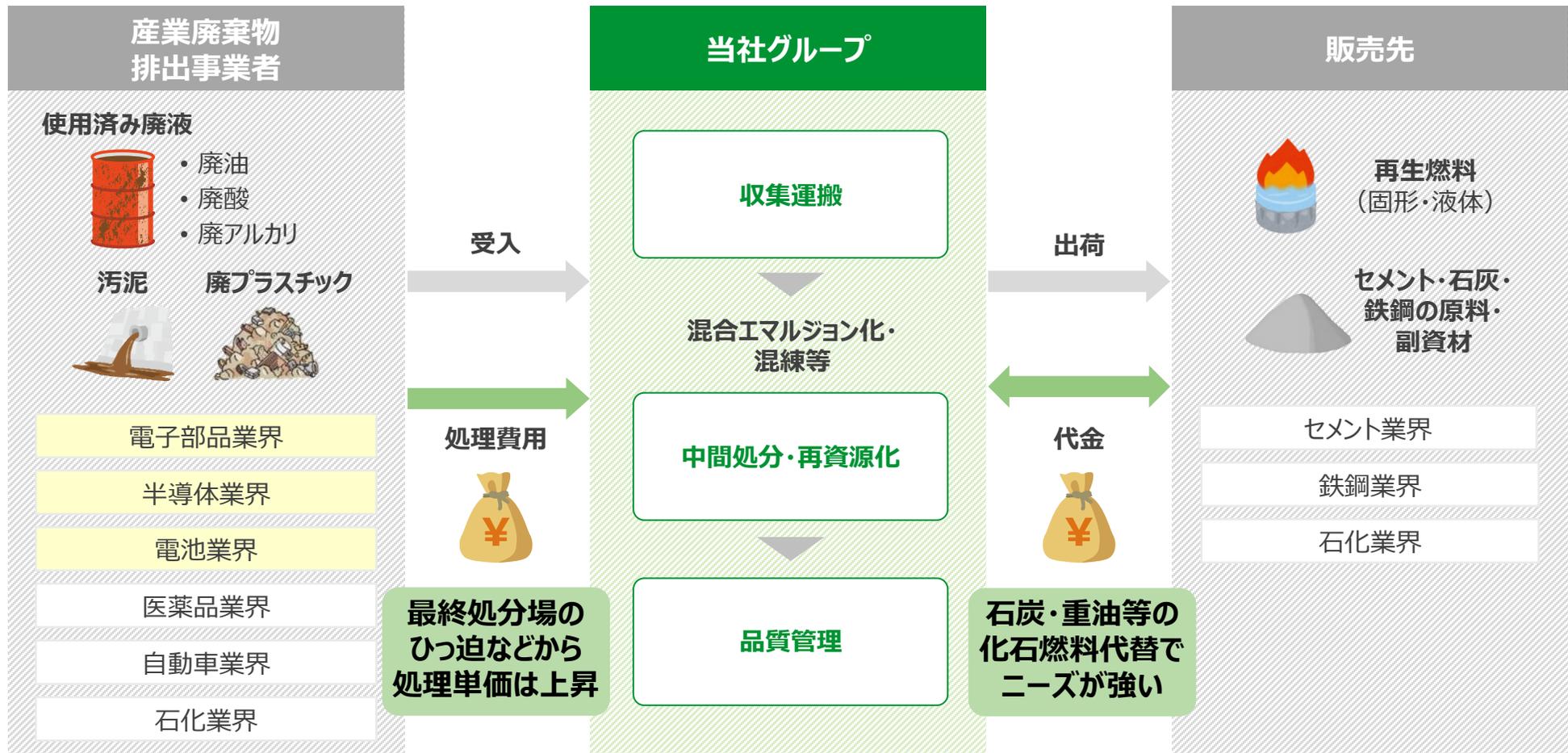


- 回収した廃棄物を**新品に近い品質の再生製品にリサイクル**して資源の国内循環を促進
- 二次産業全般にわたる**多種多様な業界との取引**により、安定的な収益基盤を構築

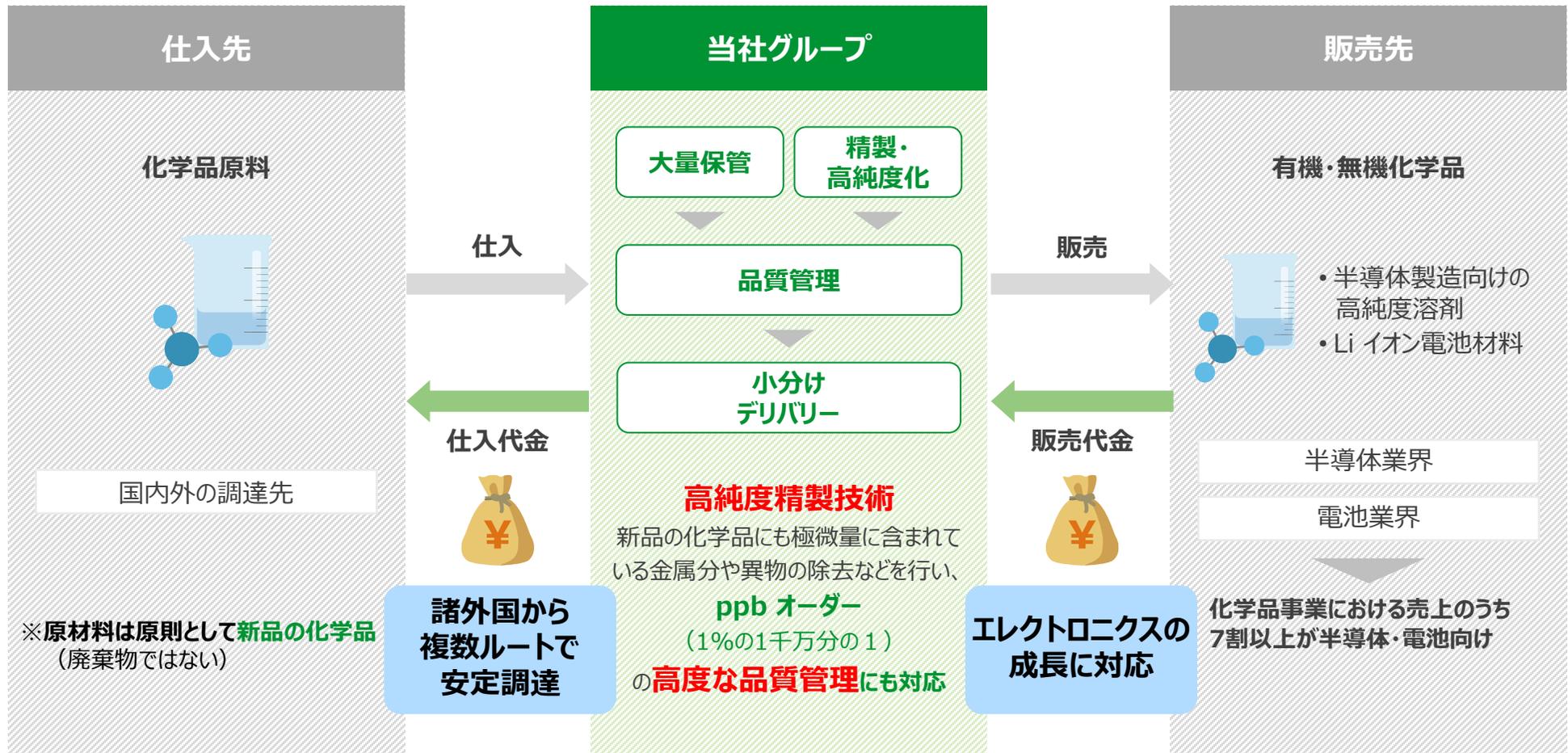




- 素材として再資源化できない産業廃棄物を**再生燃料など別用途へ再資源化**
- **脱炭素**が求められる業界からの需要が高まっている



- 高度な分離・精製・分析技術を活用し、品質要求が高い電子部品・半導体・電池関連メーカーが使用する高品質な有機・無機化学品に精製・高純度化して供給





# 当社グループを取り巻く環境

- 日本は資源・エネルギーの輸入依存度が高く、サステナブルニーズが特に強い
- エレクトロニクス分野は国策として伸ばしていく重要マーケット

## 資源制約・リスク

- 枯渇・争奪
  - 供給途絶
- ⇒ **資源の調達難**

## 環境制約・リスク

- 廃棄物処理
  - CO<sub>2</sub>削減
- ⇒ **非対応は敬遠される**

## 半導体

- あらゆる電子機器に使用
- スマート・デジタル社会を支える基幹部品
- 高性能化が省エネ化に直結

## 蓄電池

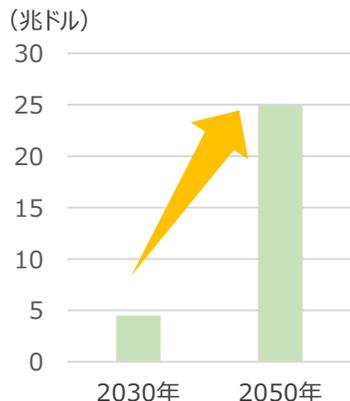
- モビリティ・電子機器の動力源
- エネルギーの貯蔵媒体

➡ **サーキュラーエコノミーを通じた新しい成長が期待される**

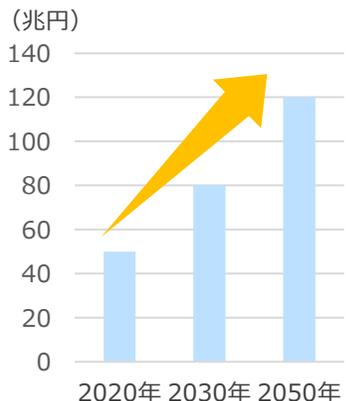
➡ **サプライチェーンの確保とさらなる成長が期待される**

## サーキュラーエコノミー関連の市場規模

### 世界全体

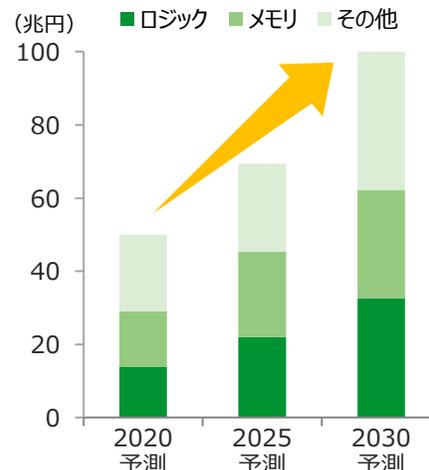


### 日本国内



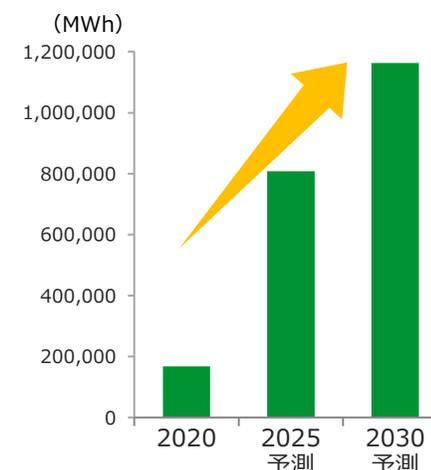
出典：経済産業省／2023年3月 成長志向型の資源自律経済戦略の概要

## 世界の半導体市場



出典：経済産業省「半導体戦略（概略）」  
※縦軸は出荷額を表す

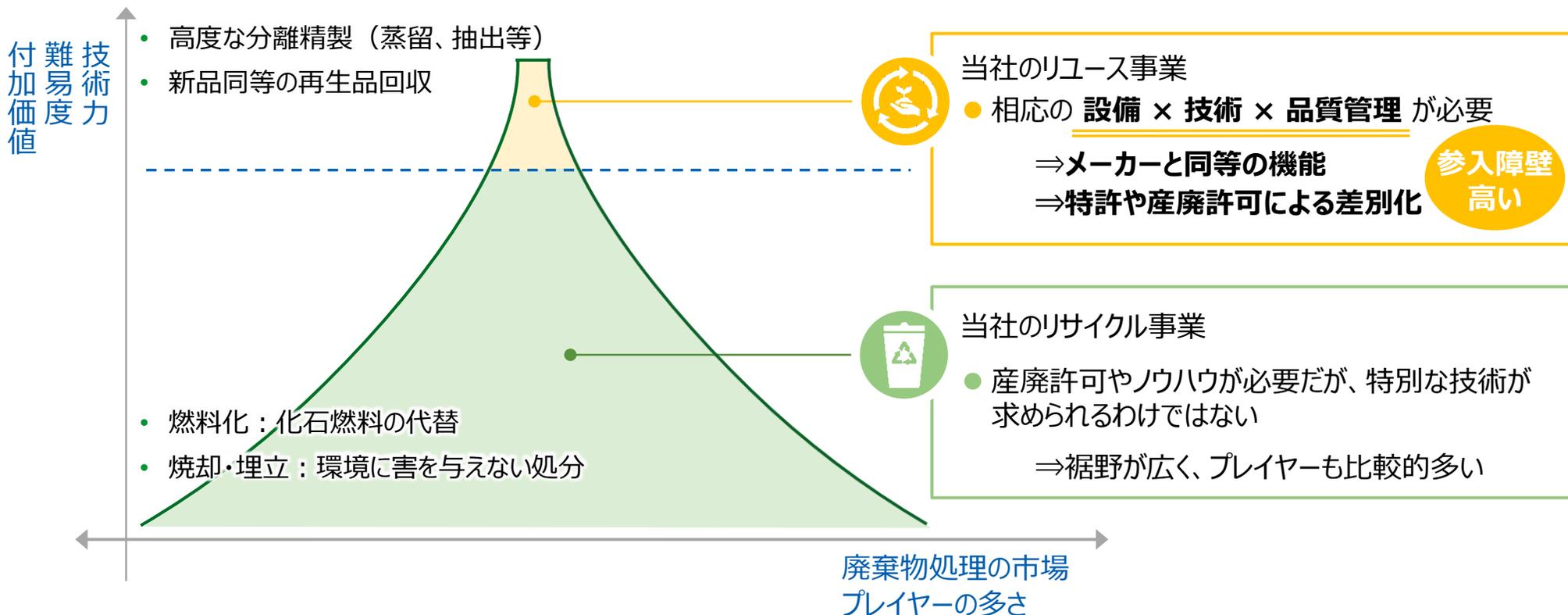
## リチウムイオン二次電池の世界市場



出典：矢野経済研究所発表「車載用リチウムイオン電池世界市場に関する調査」



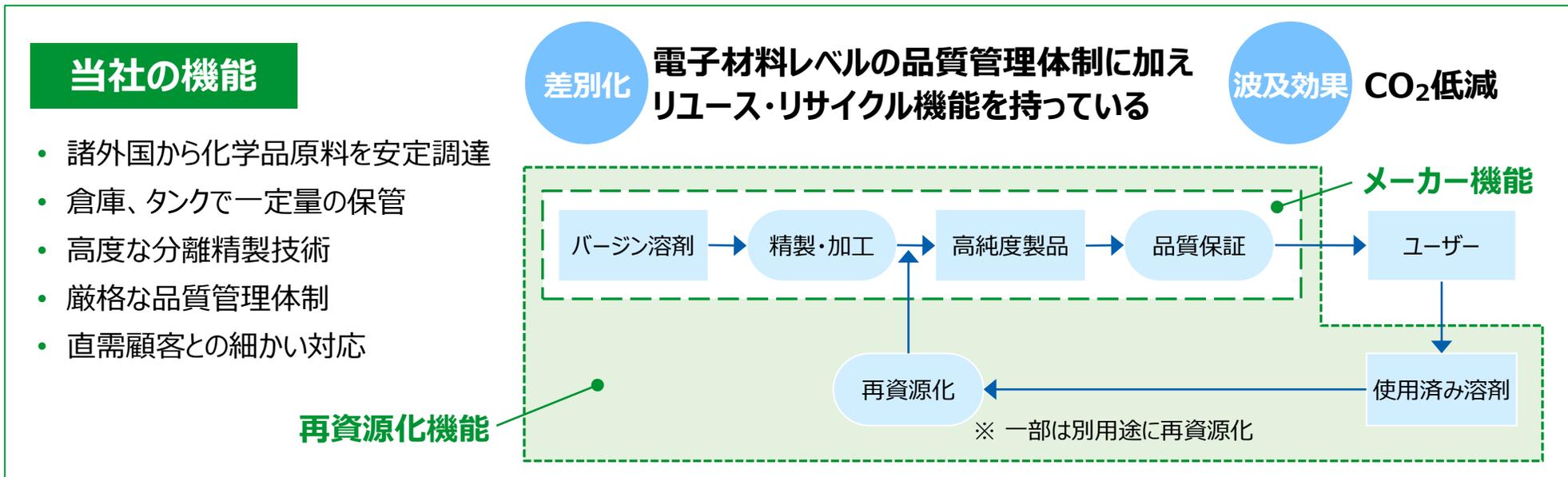
## ■ 当社は「**製造業**」として上場した **唯一の化学品リサイクルメーカー**



### 今後の期待値 成長性

- **エレクトロニクス業界**は中長期的に成長
  - **資源需要**が拡大し、**調達リスク**や**サステナブルニーズ**がさらに高まる
- ⇒ **リユース事業を介して社会課題を解決し、事業成長を図る**

- 中長期的に成長が期待される**エレクトロニクス業界がターゲット**
- **メーカー機能 × 再資源化機能** により更なる成長を描く



右肩上がりに増えていくマーケットに対し  
「**メーカー機能**」×「**再資源化機能**」  
を伸ばすことでさらなる事業成長が期待できる

**メーカー機能**

化学品事業



**再資源化機能**

リユース・リサイクル事業



**シナジー効果を最大限に発揮**

※将来的にはカーボンフットプリント表示、リサイクル材使用がスタンダードとなる



# 2023年3月期 決算概要



## 2023年3月期

売上高	営業利益	営業利益率
17,367百万円 【前年同期比】+11.8% 	1,885百万円 【前年同期比】+15.7% 	10.9% 【前年同期比】+0.4PT 

### 事業環境

- 米中対立、ウクライナ・ロシア情勢等の地政学リスクや為替影響により、資源・エネルギーコスト上昇
- 半導体不足、サプライチェーンの混乱、スマホ・PC販売不振等により、国内製造業の一部で稼働不安定

### 内部対応

- 産業廃棄物の有効利用や電子材料向け製品の供給に注力
- 東西工場拠点における新設リサイクル施設を稼働させるための営業活動・顧客開拓

⇒ 上期の業績は好調であった一方、下期は国内経済に減速感

- 累計の売上高・各段階利益は、いずれも過去最高の業績
- 原材料価格の高騰と化学品事業の伸長によるセールスマックス変化により、粗利率は低下

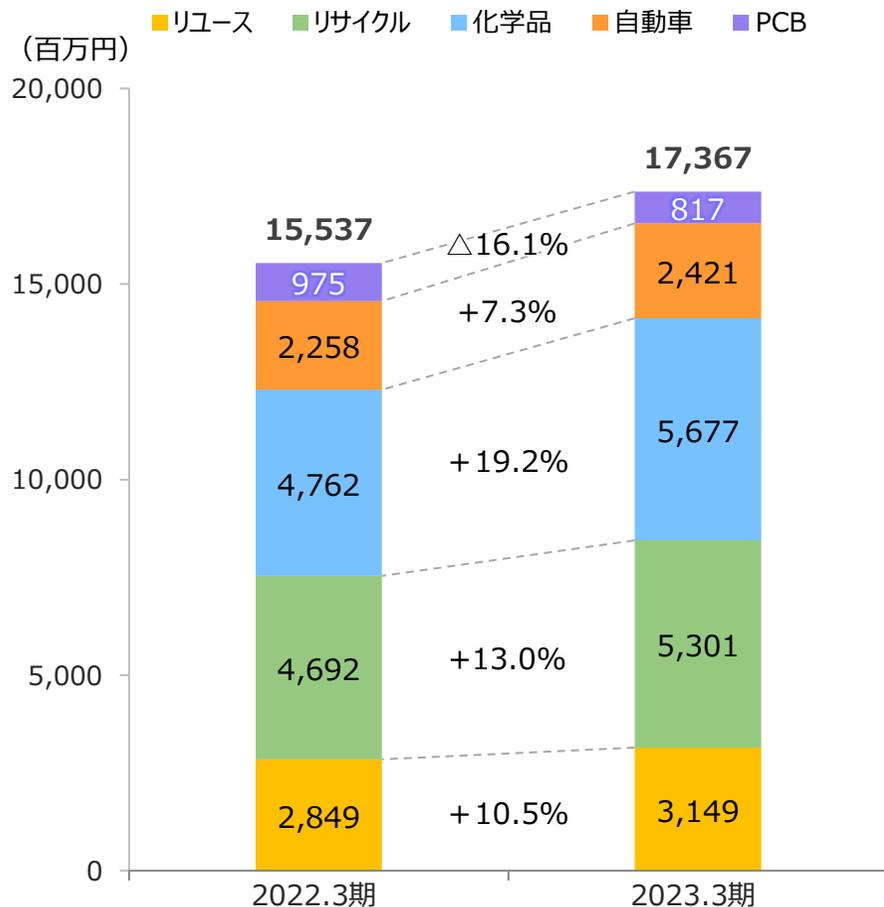
(単位：百万円)	2022年3月期		2023年3月期							
	実績	売上高比率	実績	売上高比率	前期比 増減額	前期比	予想	売上高比率	予想比 増減額	予想比
売上高	15,537	100.0%	<b>17,367</b>	100.0%	+1,829	+11.8%	17,000	100.0%	+367	+2.2%
売上総利益	4,603	29.6%	<b>4,981</b>	28.7%	+378	+8.2%				
営業利益	1,629	10.5%	<b>1,885</b>	10.9%	+256	+15.7%	1,800	10.6%	+85	+4.8%
経常利益	1,629	10.5%	<b>1,936</b>	11.2%	+307	+18.9%	1,800	10.6%	+136	+7.6%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	1,259	8.1%	<b>1,325</b>	7.6%	+66	+5.2%	1,250	7.4%	+75	+6.0%
ROE	16.4%		<b>12.8%</b>		△3.6Pt					

※2022年3月期には、特別利益として受取保険金（229百万円）を含んでおります。

※ROE算出のための株主資本は期中平均を用いております。2022年3月期の期首は株式上場前であり、株主資本が小さかったことが影響しております。

- 年度中盤以降は国内経済の一部に減速感ある中、PCB事業を除く4事業で売上高が前期比増

## 事業種別売上高



## 事業種別概況



### リユース事業

- ・ サークラーエコミー形成への貢献を目指す
- ・ 有機溶剤・リン酸等のマテリアルリサイクルに注力



### リサイクル事業

- ・ 化石燃料の代替となる廃棄物由来エネルギーで脱炭素に貢献
- ・ 東西拠点（茨城・和歌山）での取扱数量増加に注力



### 化学品事業

- ・ 今後も成長が期待される半導体・電池向け製品の供給に注力
- ・ 高度な品質管理対応、生産能力の拡充を図る



### 自動車事業

- ・ 次世代自動車への転換期
- ・ 顧客の生産ライン撤去・移設のフォローと次世代ニーズ調査



### PCB事業

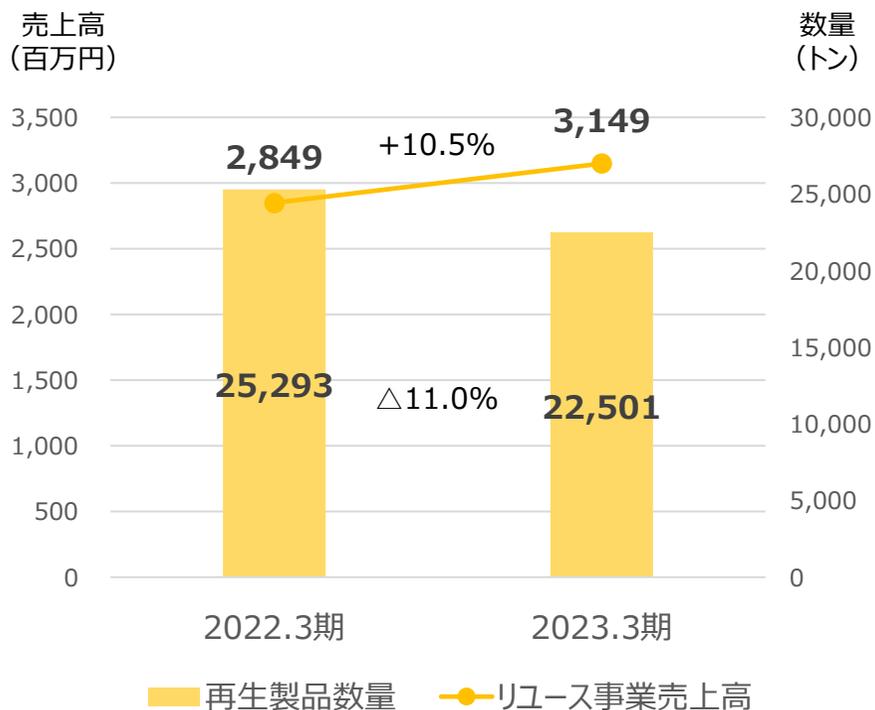
- ・ 2027年の処理期限に向けたソリューション提供
- ・ 顧客の信頼を獲得し、他の事業での取引展開に注力



# リユース、リサイクル事業（前期比）



## リユース事業

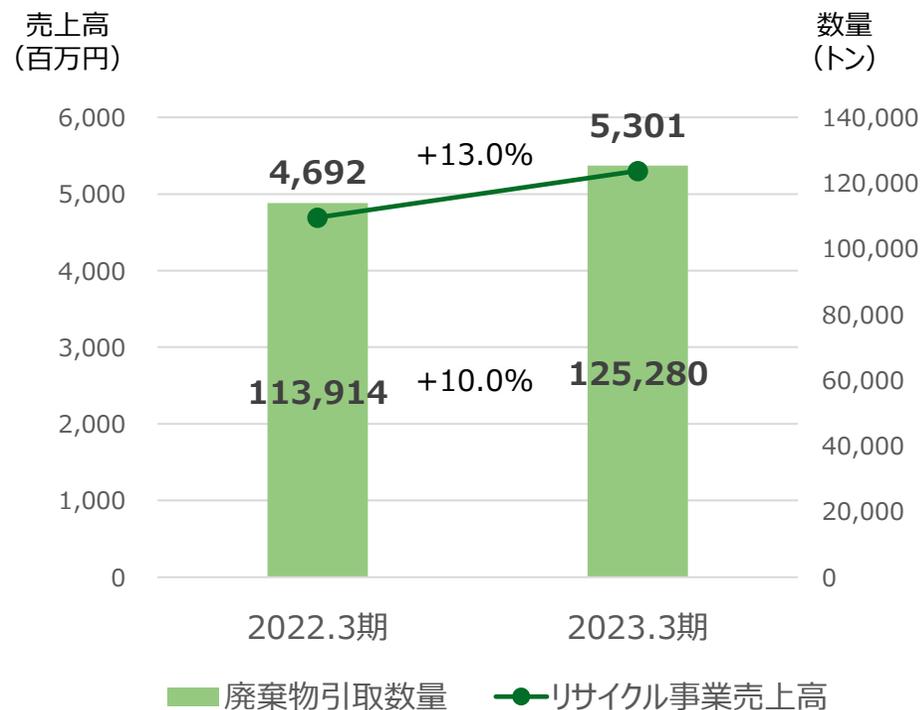


### ■ リユース事業売上と再生製品販売数量

- 数量は前年同期比減少（前期は大型スポット案件あり）
- 資源価格の上昇に伴い、**再生製品の売価UPが売上増に寄与**



## リサイクル事業



### ■ リサイクル事業売上と廃棄物引取数量

- 東西拠点を中心とした**廃棄物引取数量増が売上増に寄与**
- 廃棄物の引取価格、再生燃料の販売価格も僅かに上昇

※グラフの数量は各事業別の全体数量ではなく、各事業売上と最も相関がある分類のみを選択しております

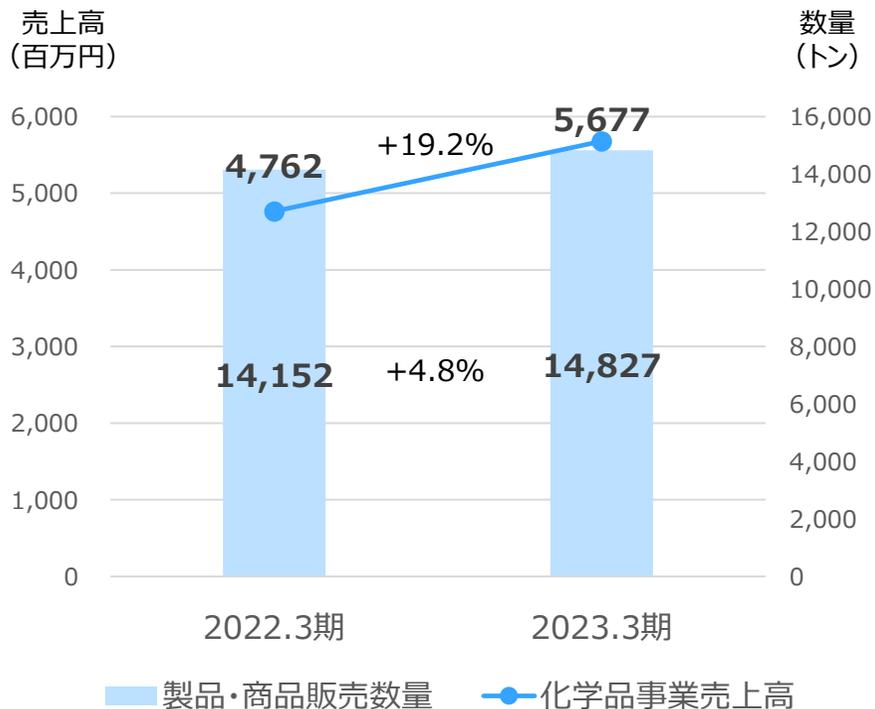


# 化学品、自動車事業（前期比）

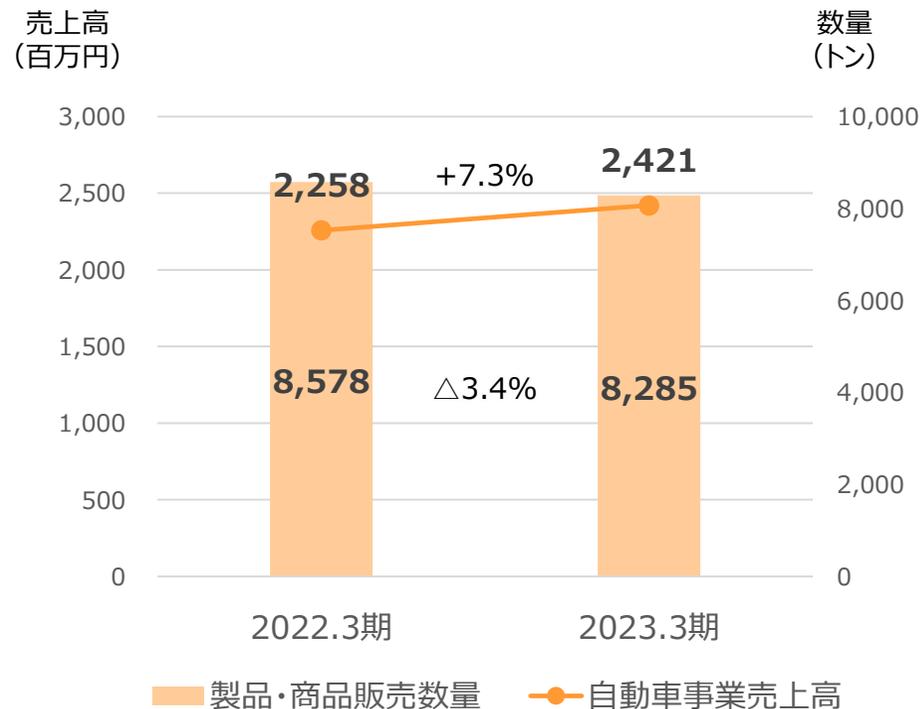
※製品・・・当社グループが品質保証する製造品 商品・・・転売品



## 化学品事業



## 自動車事業



### ■ 化学品事業売上と製品・商品販売数量

- 主要品目で価格変動あるが、電池向け製品数量は伸長
- 半導体関連顧客では年度中盤以降に減速感

### ■ 自動車事業売上と製品・商品販売数量

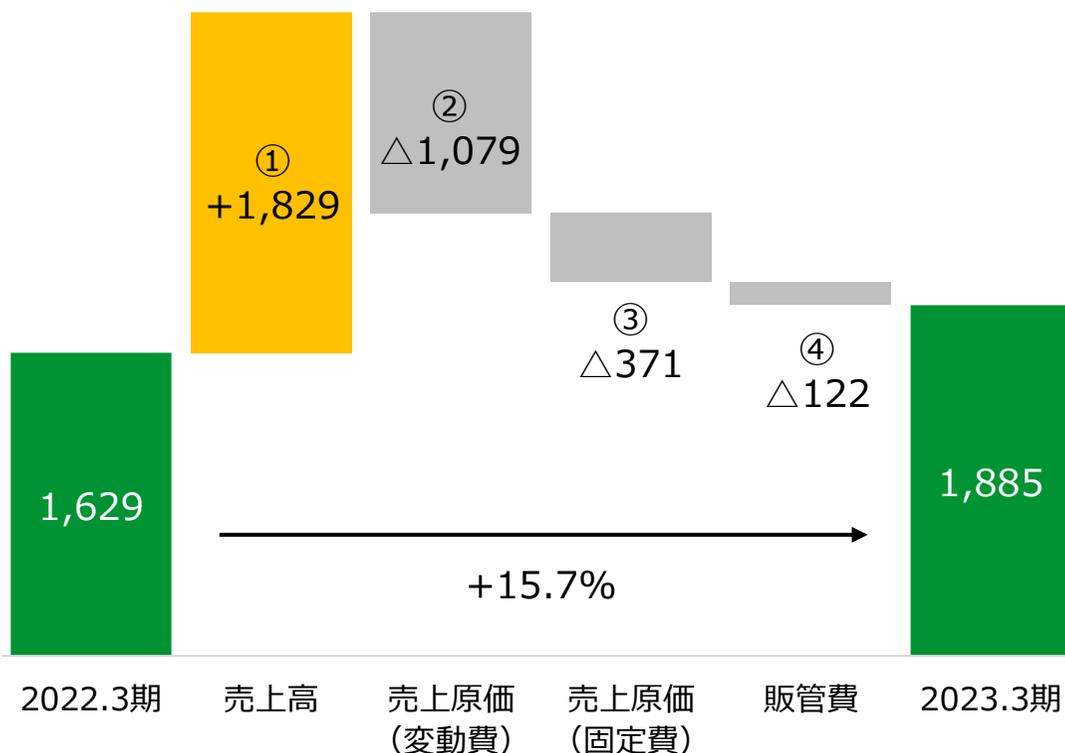
- 不安定な顧客稼働により販売数量は減少
- 売価UPと顧客設備等の解体・撤去・清掃作業で売上増

※グラフの数量は各事業別の全体数量ではなく、各事業売上と最も相関がある分類のみを選択しております

# 営業利益増減要因分析（前期比）

- リユース・リサイクル事業（固定費型）と化学品事業（変動費型）の売上がバランス良く増加
- 設備償却費や人件費等の固定費も増加したが、数量増加と売価UP効果が上回った

(百万円)



## ①売上高

- 化学品／電池向け製品が着実に伸長
- リサイクル／東西拠点を中心に数量増加
- リユース／資源価格の上昇に伴い売価UP

## ②売上原価（変動費）

- 原材料の数量増加、単価上昇
- 外部処理先への産廃処理費増加
- アライアンス先への外注加工費増加
- 廃棄物原料（特にリン酸）の買取費用増加

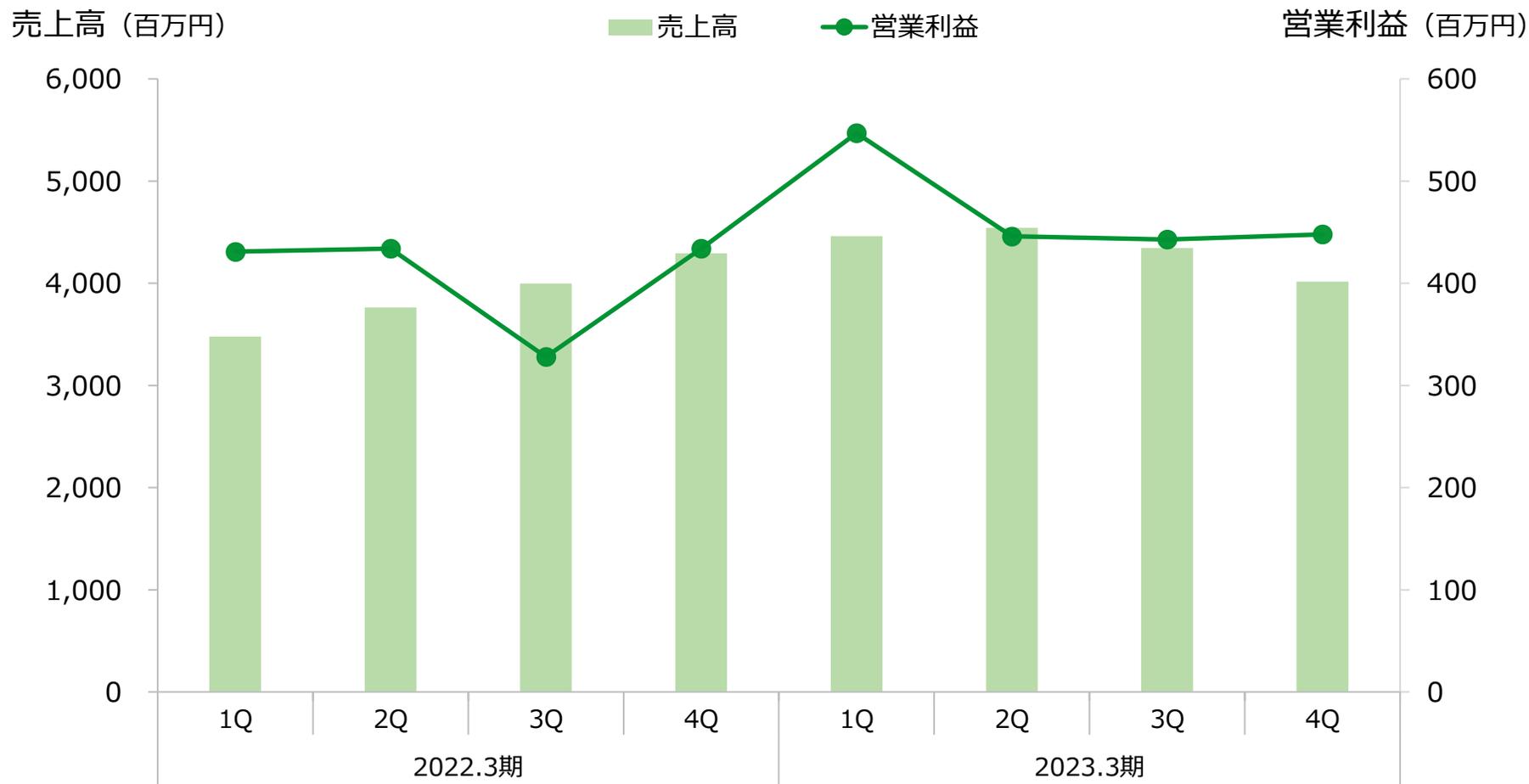
## ③売上原価（固定費）

- 投資設備の稼働開始による減価償却費増加
- 人員増、ベースアップによる人件費増加
- ユーティリティ費（電気・ガス）増加
- 設備増、売上増に伴う保険料増加

## ④販管費

- 人員増、ベースアップによる人件費増加
- 上場に伴う監査費用、株主総会費用増加
- IPOに伴う一時的な上場関連費用分は減少

- 23.3期後半は国内経済の一部で減速感、主要品目の価格も低下 ⇒ **売上高は若干の減少**
- 特定業種・特定顧客に依存しておらずリスク分散できている ⇒ **利益は安定的に確保**

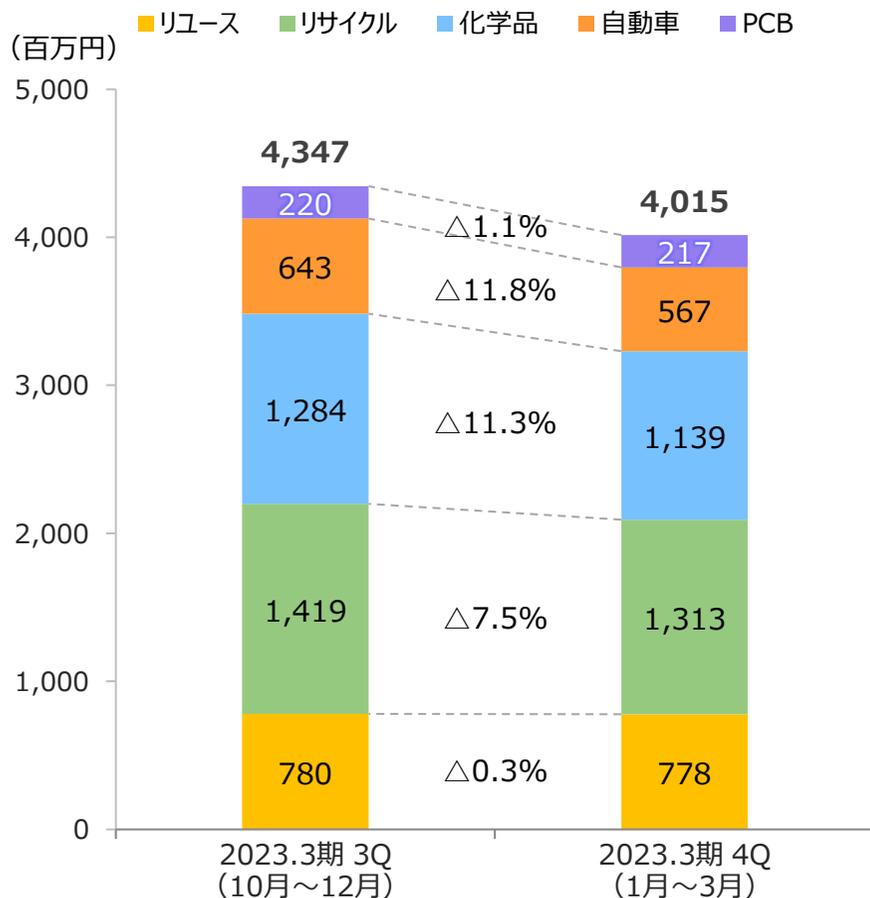


※2022.3期 3Qは上場関連費用等を計上しております

※2022.3期 1Q・2Qの数値については、監査法人によるレビュー対象外であります

- 4Qは国内製造業全般の稼働減により、取扱数量・売上高は減少

## 事業種類別売上高



## 事業種類別概況



### リユース事業

※FPD・・・フラットパネルディスプレイ

- FPD、一部の半導体の稼働低下で廃棄物原料が減少
- 資源高騰や輸入依存を背景に再資源化ニーズは旺盛



### リサイクル事業

- 製造業全般で稼働低下気味だが、東西拠点の営業強化
- 脱炭素に向けて、化石燃料の代替ニーズは強い



### 化学品事業

- 一時的に半導体関連で弱含みも長期的には伸びる分野
- 材料の価格変動あるが電池向け製品の需要は堅調に伸長



### 自動車事業

- 顧客工場の稼働は不安定な状況が継続
- 次世代自動車への転換に伴うニーズ調査に注力

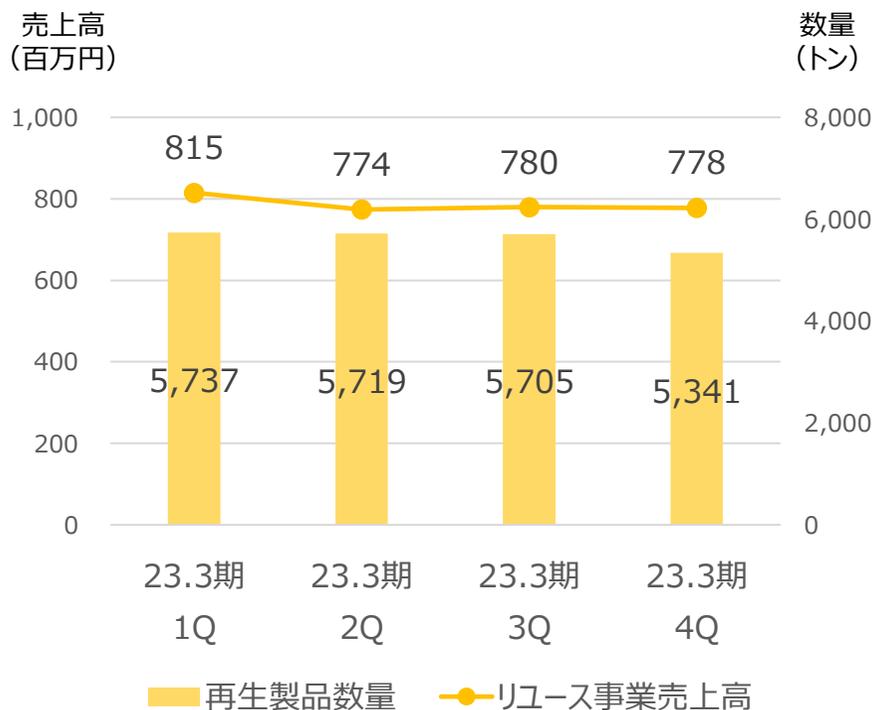


### PCB事業

- 概ね計画どおりに推移
- 他の事業での取引展開に注力



## リユース事業

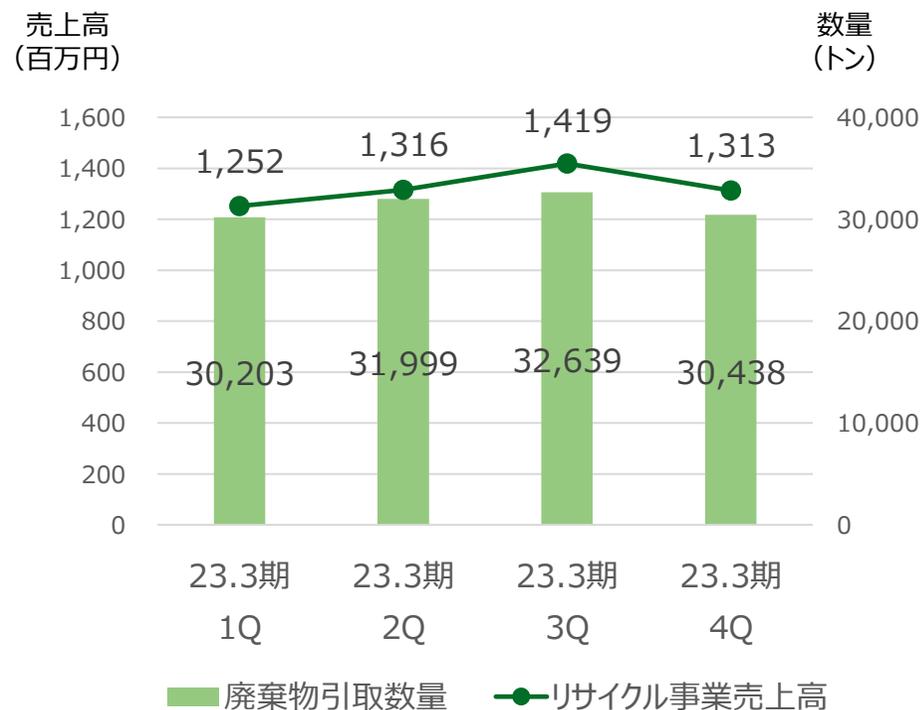


### ■ リユース事業売上と再生製品販売数量

- 1Qに金属スポット案件、**年度後半は半導体業界等に減速感**
- エネルギー・容器・運送等、コスト上昇の一部を**徐々に売価へ転嫁**



## リサイクル事業



### ■ リサイクル事業売上と廃棄物引取数量

- 東西拠点を中心とした**廃棄物引取数量増が売上増に寄与**
- 4Qは製造業の顧客全般で稼働減の影響あり

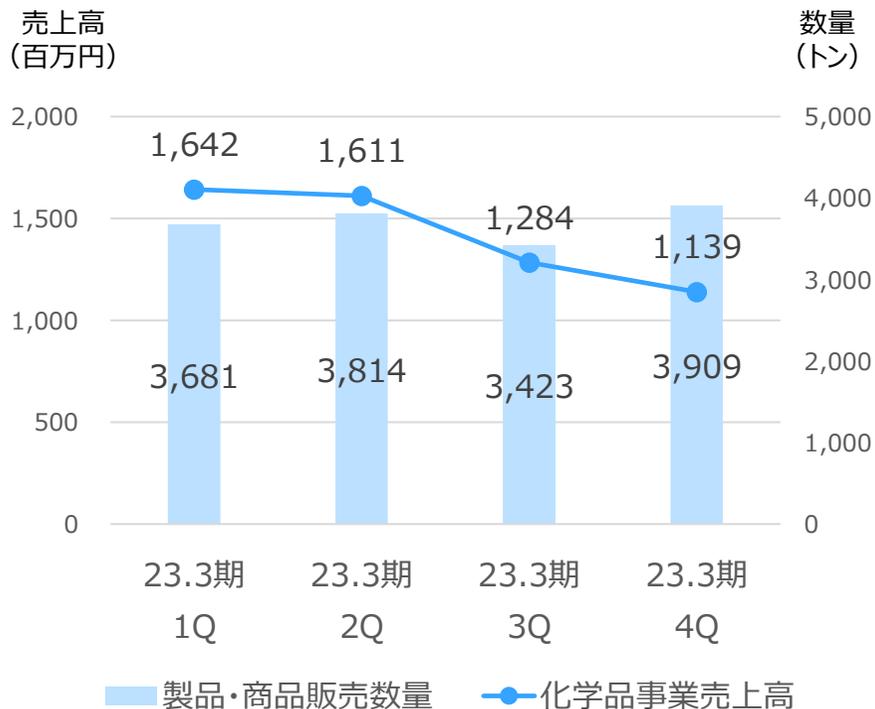
※グラフの数量は各事業別の全体数量ではなく、各事業売上と最も相関がある分類のみを選択しております



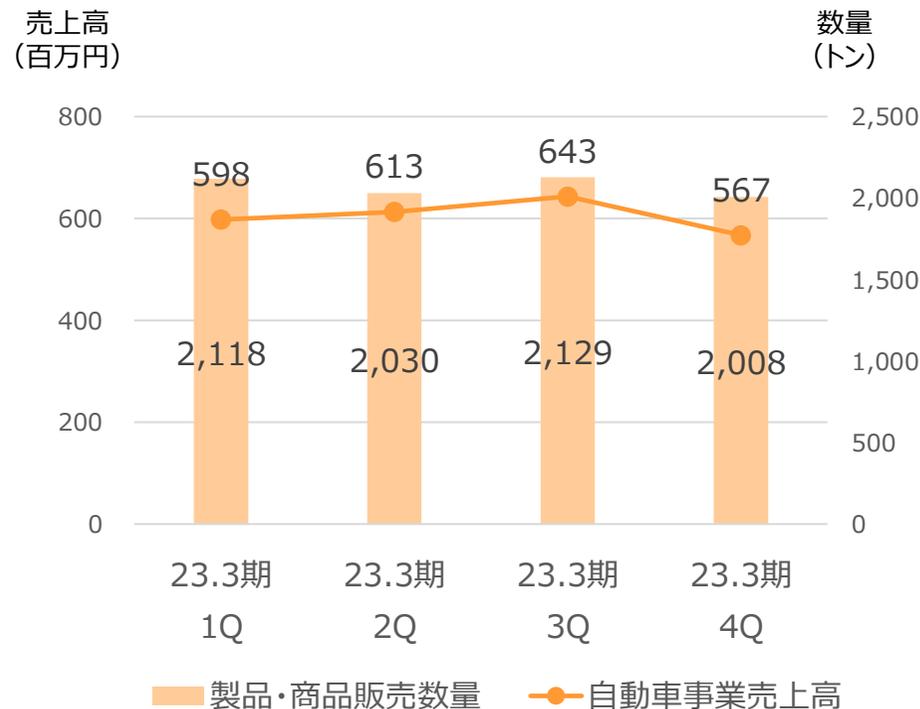
※製品・・・当社グループが品質保証する製造品 商品・・・転売品



## 化学品事業



## 自動車事業



### 化学品事業売上と製品・商品販売数量

- 年度後半に半導体関連は減速も、**電池向けは堅調に伸長**
- 2Q途中から**主要品目で急激な価格低下（マージンは確保）**

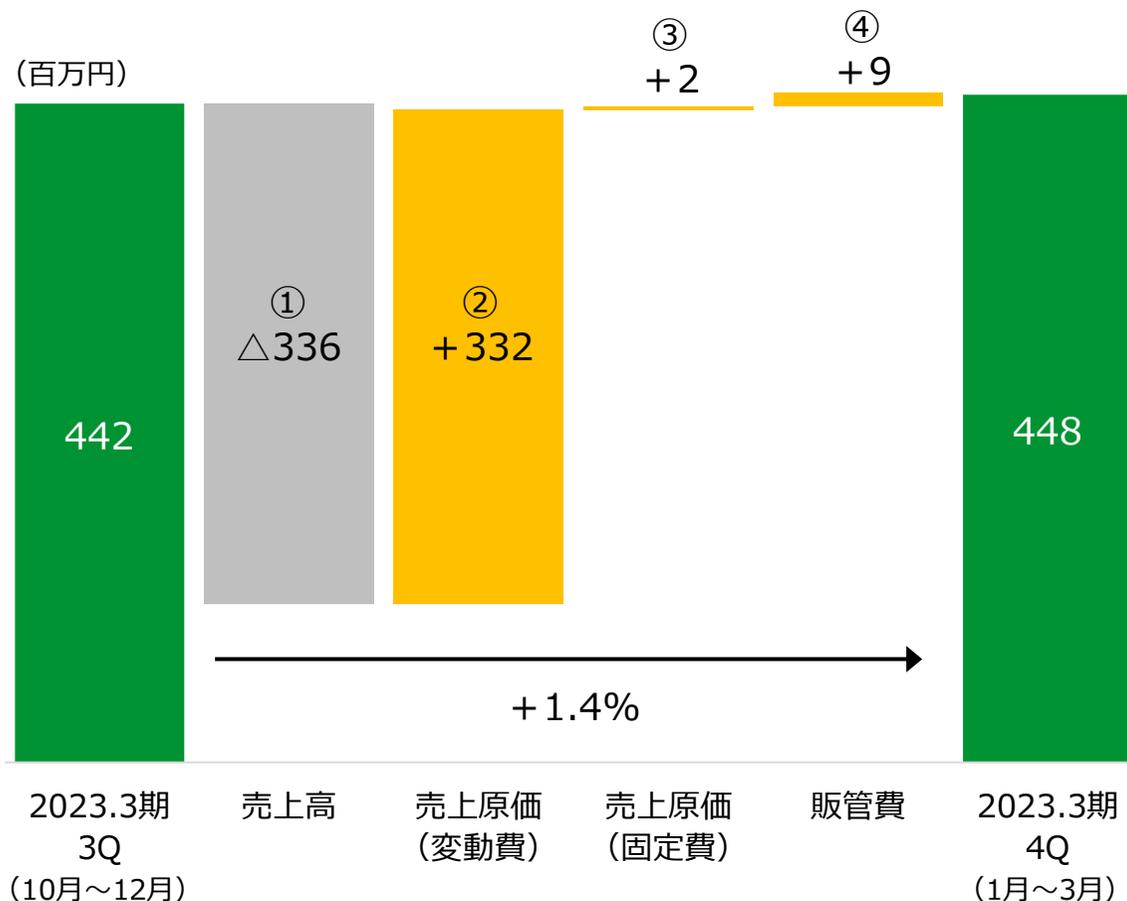
### 自動車事業売上と製品・商品販売数量

- 不安定な顧客稼働が継続、3Qは不凍液の需要期
- 顧客設備等の解体・撤去・清掃作業でカバー**

※グラフの数量は各事業別の全体数量ではなく、各事業売上と最も相関がある分類のみを選択しております

# 営業利益増減要因分析（前四半期比）

- 化学品事業の主要品目での価格下落は継続だが、在庫コントロールでマージンは回復
- 顧客稼働低下により取扱数量は減少したが、廃棄物の有効利用による付加価値向上に注力



## ①売上高

- 化学品／電池向け需要は好調も単価は下落
- リサイクル／顧客稼働低下で取扱数量減少
- 自動車／不安定な顧客稼働が継続

## ②売上原価（変動費）

- 顧客稼働減に伴う原材料、商品仕入の減少
- 化学品主要品目の価格低下が継続
- 外部処理先への産廃処理費減少
- 物流の内製強化で外部運送コスト減少

## ③売上原価（固定費）

- 投資設備の稼働開始による減価償却費増加
- 修繕費等の費用が減少

## ④販管費

- 目立った増減なし

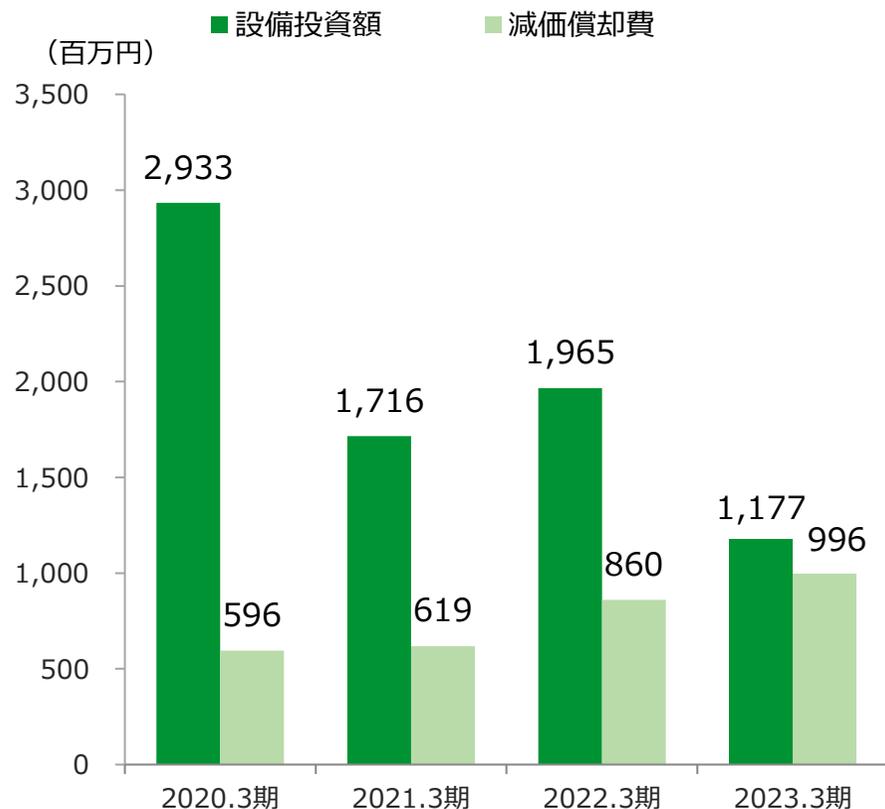
# 貸借対照表/キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)	2022年3月期	2023年3月期	前期比 増減額	コメント
流動資産	8,177	<b>7,506</b>	△670	現預金・受取手形及び売掛金が減少
固定資産	13,205	<b>13,335</b>	+130	建設仮勘定が減少、建物及び構築物が増加
資産合計	21,382	<b>20,842</b>	△539	
流動負債	6,482	<b>4,972</b>	△1,510	短期借入金の返済、設備投資の未払減少
固定負債	5,130	<b>4,836</b>	△294	長期借入金の返済が進行
負債合計	11,613	<b>9,808</b>	△1,804	
純資産合計	9,769	<b>11,033</b>	+1,264	利益獲得により利益剰余金が増加
負債・純資産合計	21,382	<b>20,842</b>	△539	

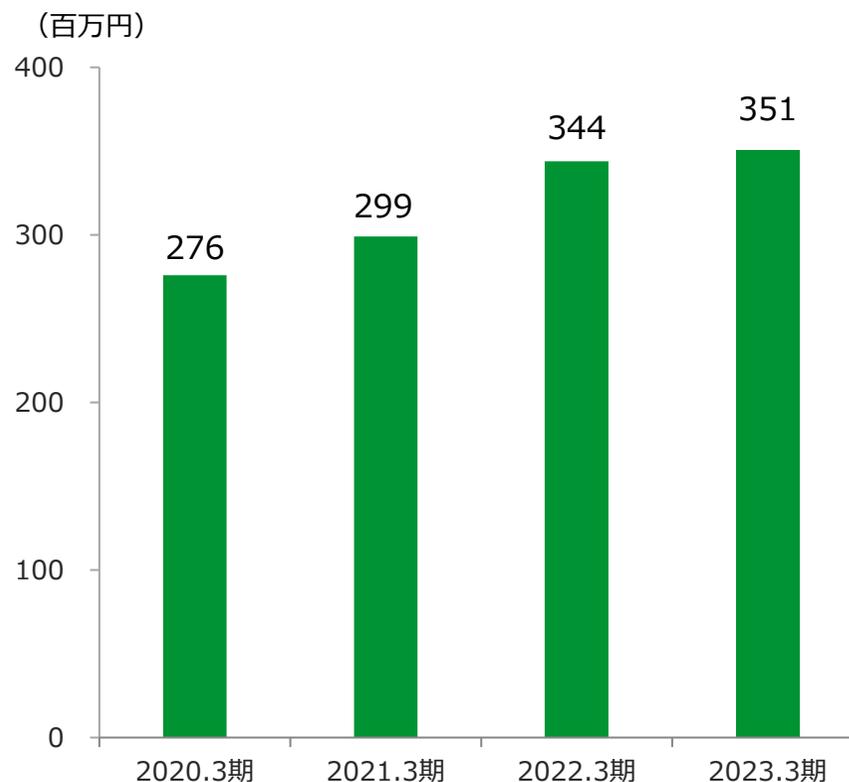
(単位：百万円)	2022年3月期	2023年3月期	前期比 増減額	コメント
営業キャッシュ・フロー	1,272	<b>2,623</b>	+1,350	利益獲得、減価償却費の増加
投資キャッシュ・フロー	△1,844	△ <b>1,881</b>	△37	有形固定資産取得
財務キャッシュ・フロー	2,291	△ <b>983</b>	△3,275	借入金の返済進行、前期は株式発行収入あり
現金及び現金同等物の増減額	1,720	△ <b>242</b>	△1,962	
現金及び現金同等物の期末残高	3,219	<b>2,977</b>	△242	

- サンワ南海リサイクル(株)の新規リサイクル設備をはじめ、生産設備関連は概ね計画どおり進捗
- 運搬車両及びIT化・DX推進関連では、一部で納期遅れや進捗遅れが発生

## 設備投資額・減価償却費



## 研究開発費



※減価償却費にはリース資産を含む



# 2024年3月期 業績予想

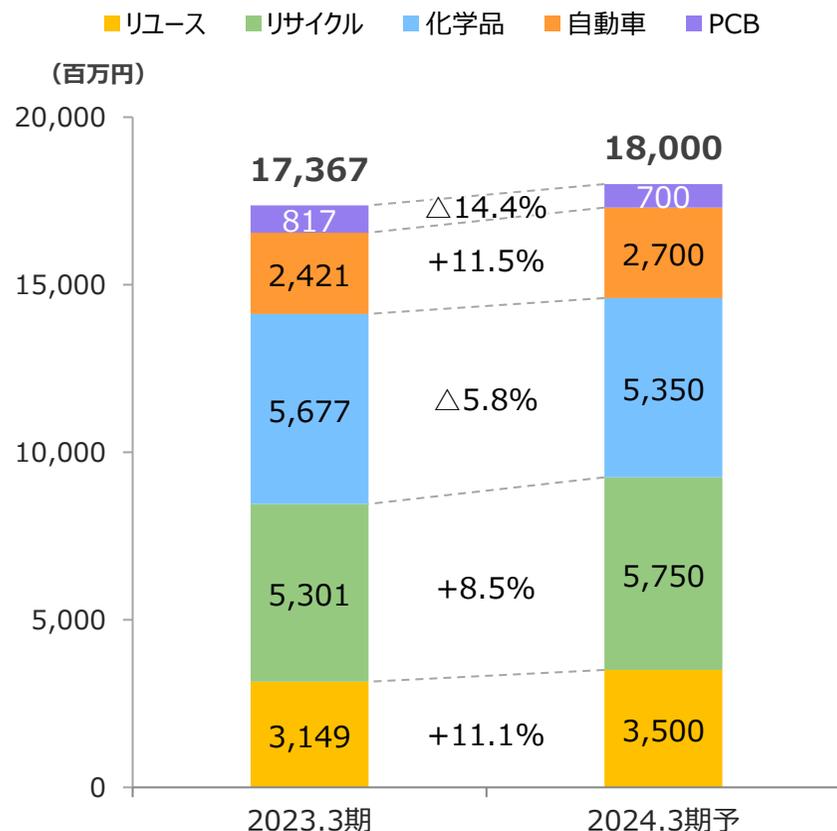


- アライアンス先での設備稼働開始に加え、当社グループ既存設備の稼働率を上げていくことに注力
- 為替135円/ドル、原油80ドル/バレルを前提に、売上3.6%増収、営業利益3.4%増益の計画

(単位：百万円)	2023年3月期		2024年3月期		増減	
	実績	売上高比率	予想	売上高比率	増減額	増減比
売上高	17,367	100.0%	<b>18,000</b>	100.0%	+632	+3.6%
売上総利益	4,981	28.7%				
営業利益	1,885	10.9%	<b>1,950</b>	10.8%	+64	+3.4%
経常利益	1,936	11.2%	<b>1,970</b>	10.9%	+33	+1.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,325	7.6%	<b>1,440</b>	8.0%	+114	+8.7%

- 資源・エネルギーの価格高騰・調達リスクに留意、国内製造業の稼働低迷 ⇒ 後半に回復基調と想定
- リユース事業、リサイクル事業、化学品事業を成長ドライバーと位置付け、環境ニーズに対応していく

## 事業種別売上高予想



## 事業種別概況



### リユース事業

- ・ アライアンス先（山陰地方）での設備稼働開始
- ・ ESG/SDGsを背景に再資源化ニーズは旺盛



### リサイクル事業

- ・ 東西拠点のリサイクル設備を中心に稼働率を向上させていく
- ・ 化石燃料の代替として廃棄物由来エネルギーを供給し、脱炭素貢献



### 化学品事業

- ・ 上期は半導体業界の低稼働も想定されるが、電池向けは堅調
- ・ 下期に電池向け設備（茨城）増設工事で、4～5ヵ月 停止予定



### 自動車事業

- ・ 顧客工場の稼働は徐々に回復することを期待
- ・ 原料仕入価格↓、製品販売価格↑でマージンは回復する見通し



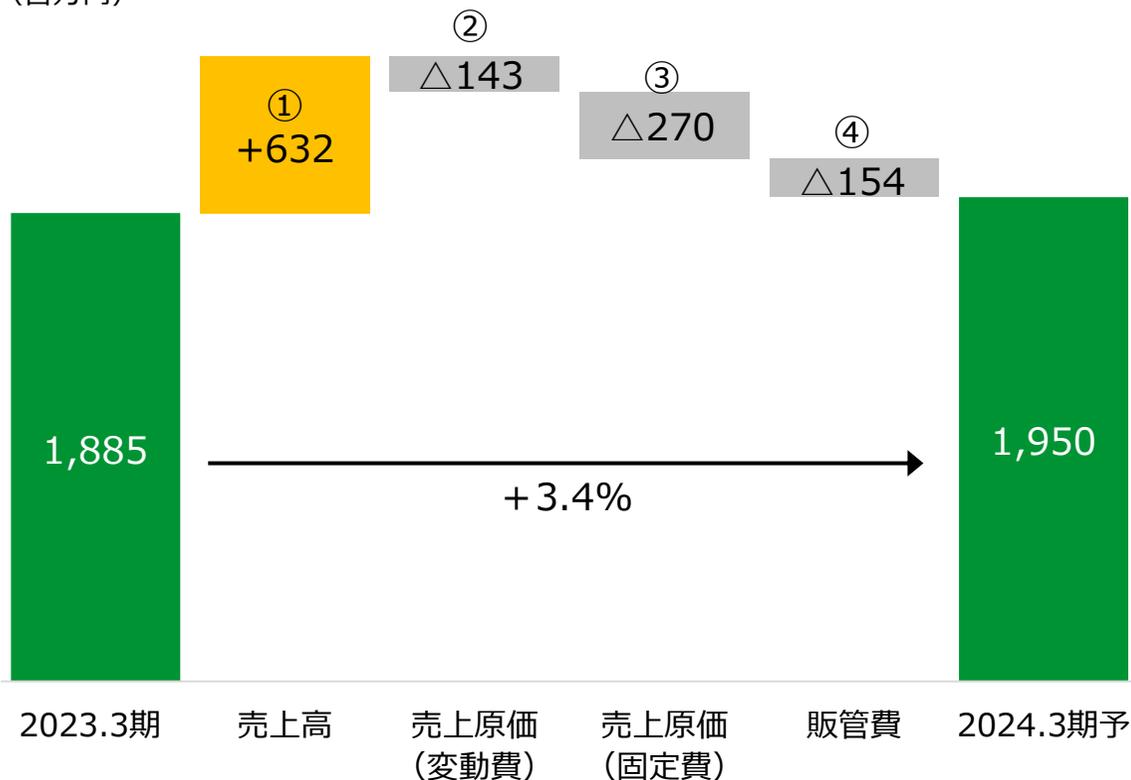
### PCB事業

- ・ 2027年の処理期限に向けて徐々に縮小見込み
- ・ PCB取引をきっかけに他事業での取引へ展開する活動に注力

# 営業利益増減要因分析（前期比）

- リユース・リサイクル事業（固定費型）中心に売上増のため、変動費の増加は限定的
- 従業員給与のベースアップやDX含む業務効率化への投資も積極的に行う

(百万円)



## ①売上高

- ・ 前ページのとおり（P27参照）  
（増収）リユース、リサイクル、自動車  
（減収）化学品、PCB

## ②売上原価（変動費）

- ・ リサイクルで外部処理先への産廃処理費増加
- ・ 化学品、自動車で転売商品の数量増加
- ・ 電池向けが下期一時停止で原材料費減少
- ・ 物流コスト増加

## ③売上原価（固定費）

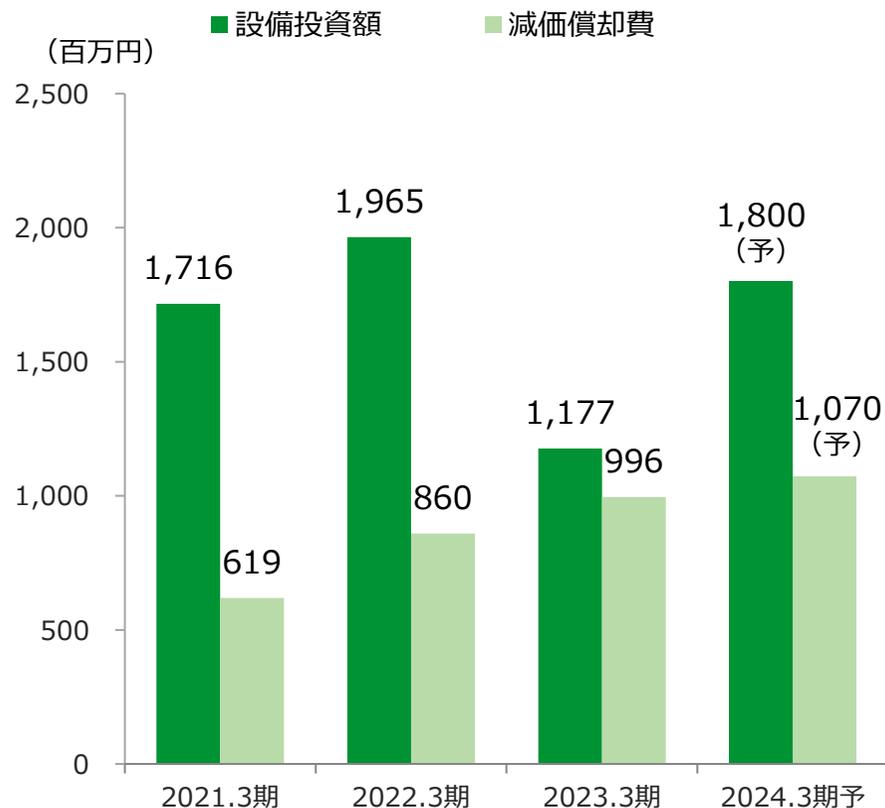
- ・ 人員増、ベースアップで人件費増加
- ・ 設備投資に伴う減価償却費増加
- ・ ユーティリティー費（電気・ガス）増加
- ・ その他経費（作業改善含む）増加

## ④販管費

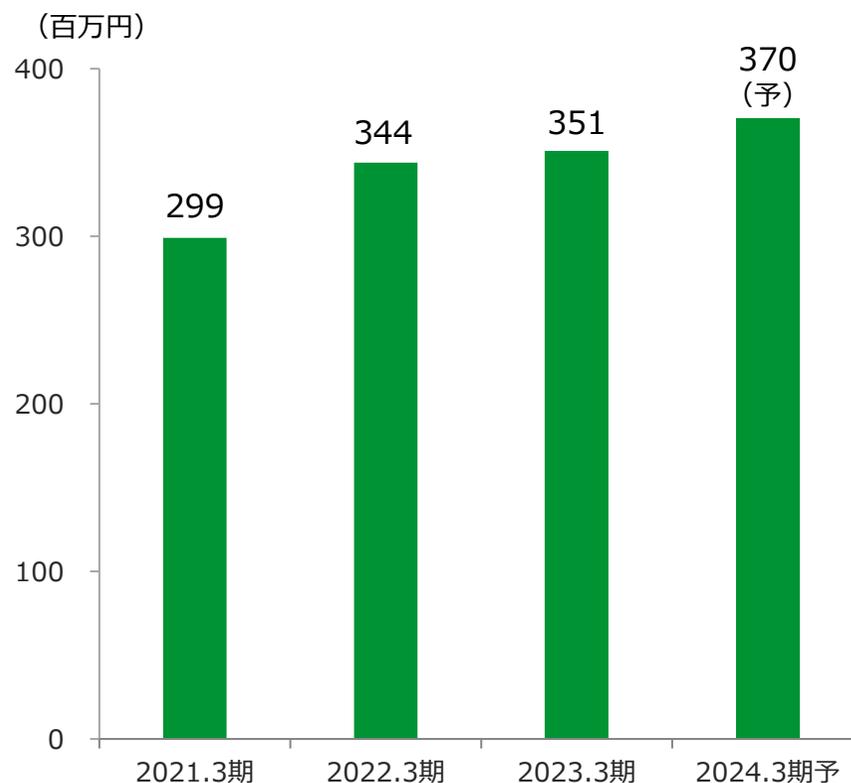
- ・ 人員増、ベースアップで人件費増加
- ・ 業務効率化（DX含む）のための投資

- (当社) 本社工場・高純度溶剤、茨城・電池向け製品等の生産設備を拡充
- (サンワリーツ(株)) 運搬車両の増車、危険物倉庫の増設、西日本物流拠点の整備

## 設備投資額・減価償却費



## 研究開発費

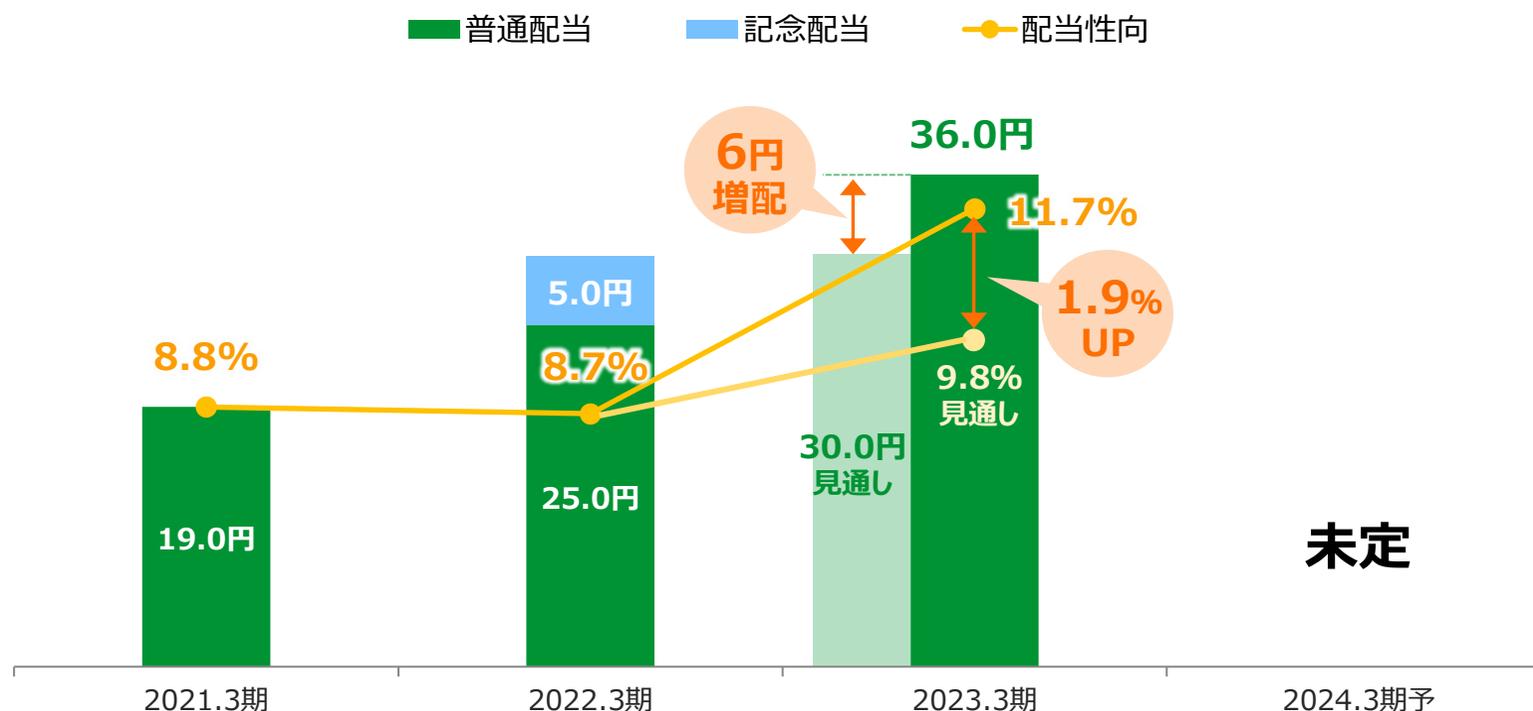


※減価償却費にはリース資産を含む

## 配当方針

今後の事業展開及び財務体質の充実等を勘案のうえ、  
安定的な配当を継続して実施していきます

### 1株あたり配当金・配当性向



※2021年6月18日付にて普通株式1株につき20株の割合で株式分割を行っているため、2021.3期については、遡及して配当金額を修正しております  
 ※2022.3期の1株あたり配当金30円につきましては、普通配当25円のほか記念配当5円を含んでおります。



# 中期経営計画



- SDGsへの貢献銘柄として、**2021年12月に計画どおり株式上場を達成 (SDGs IPO)**
- 廃棄物の再資源化、電子材料向け製品の供給に注力し、**売上・利益目標を前倒し達成**

	2024年3月期 目標	2023年3月期 実績	評価	
売上高	15,860百万円	17,367百万円	◎	1年前倒し達成
営業利益	1,790百万円	1,885百万円	◎	1年前倒し達成
営業利益率	10%以上	10.9%	◎	2年前倒し達成
その他	22/3期に株式上場	22/3期に株式上場	○	計画どおり達成

## 前倒し達成の 主な要因

- 資源価格の上昇
- ESG/SDGsが広く浸透
- 半導体、電池市場の拡大
- 東西拠点での生産設備拡充
- 生産性向上の推進

- 事業環境と当社グループの強みを踏まえて、経済的価値と社会的価値の向上を図る

## 事業環境

### 大企業を中心としたサステナブルニーズ

- 国内での資源循環、サーキュラーエコノミー
- 化石エネルギーからの転換、脱炭素
- 資源調達リスク等の課題解決

### エレクトロニクス分野のマーケット拡大

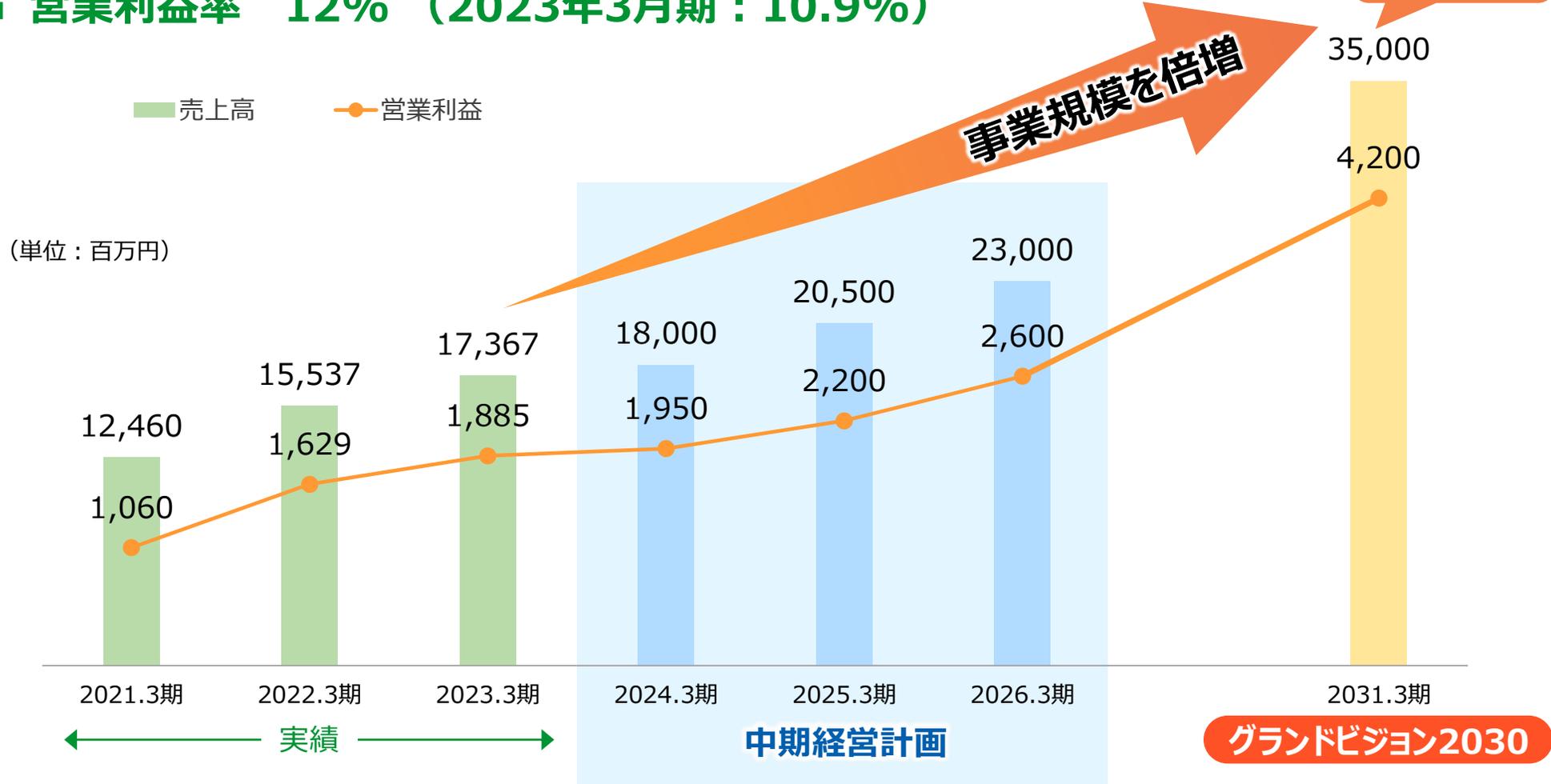
- 新たな工場建設への投資が加速
- 次世代自動車シフトによるサプライチェーン変化
- 微細化に伴う品質要求厳格化と再生材ニーズ

## 自社グループの強み

- ① 全国から様々な廃棄物を集める仕組みと特徴ある産廃許可を保有
- ② 輸入依存資源をマテリアルリサイクルできる高度な分離・精製技術を保有
- ③ リサイクル企業であり、メーカーである
- ④ 廃棄物から電子材料まで幅広い事業領域
- ⑤ 全国の優良企業との直需取引

⇒ 拡大するニーズ・マーケットに対し、世の中の役に立つ仕事を通じ  
「社会から必要とされる環境リーディングカンパニー」を目指す

- 売上高 350億円 (2023年3月期比 : 2倍)
- 営業利益 42億円 (2023年3月期比 : 2.2倍)
- 営業利益率 12% (2023年3月期 : 10.9%)



## 業績目標

2026年3月期

売上高

23,000百万円

営業利益

2,600百万円

営業利益率

11%以上

## グランドビジョン2030に向けた 中期経営計画の位置づけ

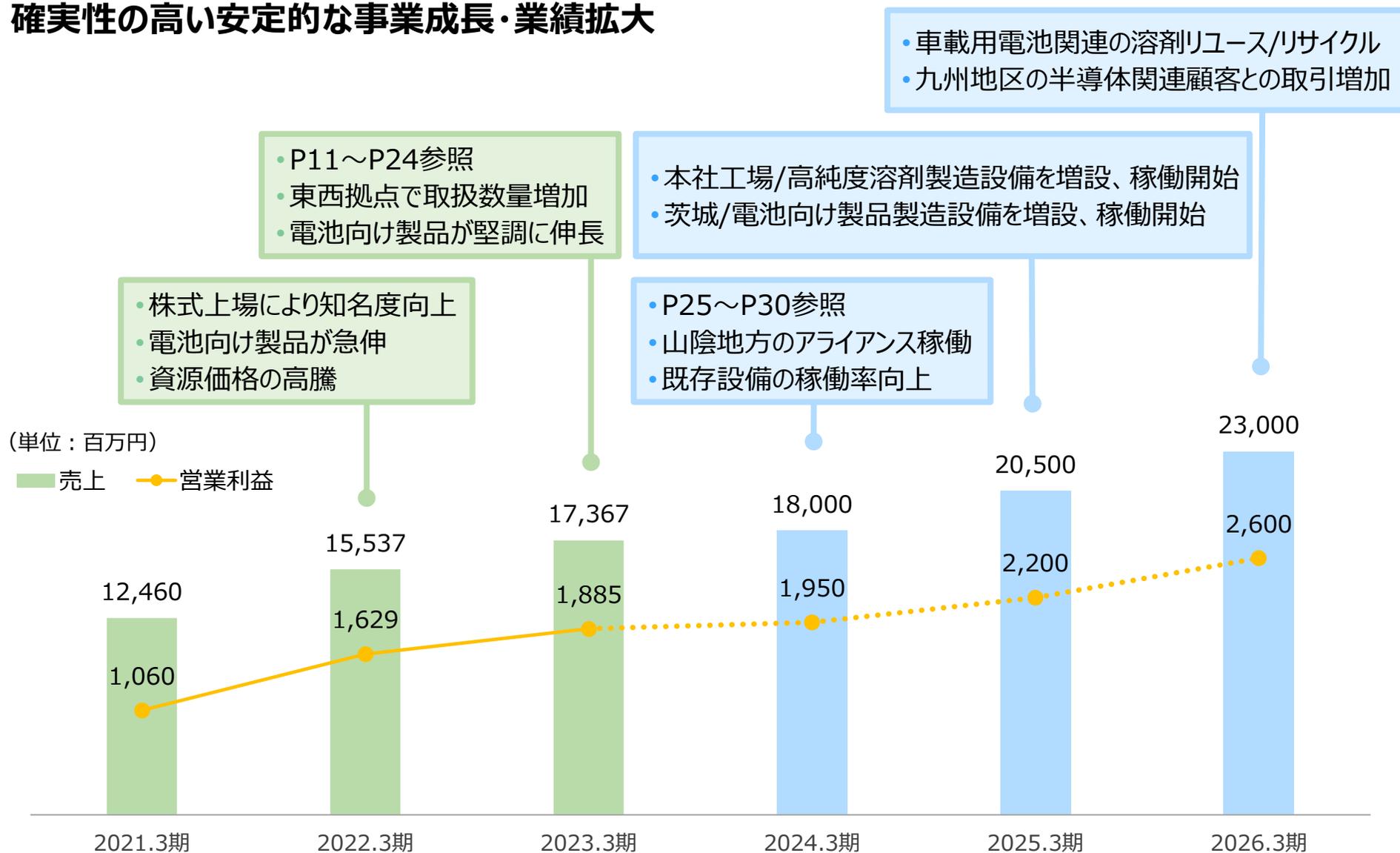
### 確実性の高い安定的な 事業成長・業績拡大

- 25/3期稼働の設備含め、設備稼働率向上
- 東西拠点を中心とした顧客開拓
- 本社地区での車載用電池関連リユース・リサイクル

### グランドビジョン2030に向けた 次期大型投資の準備

- 数十億円規模の投資を複数計画
- 九州等の成長エリアにおけるリユース、リサイクル
- 本社地区で半導体・電池関連のキャパ増

## ■ 確実性の高い安定的な事業成長・業績拡大

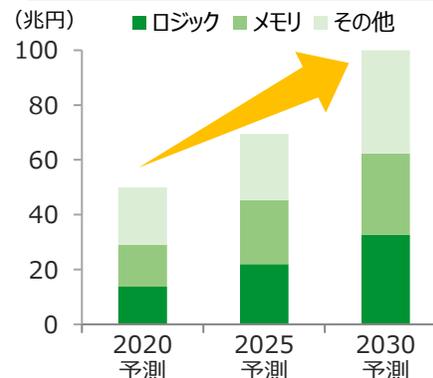


- グランドビジョン2030に向けた次期大型投資の準備
- 1案件あたり数十億円規模の投資を複数計画していく

## 本社地区

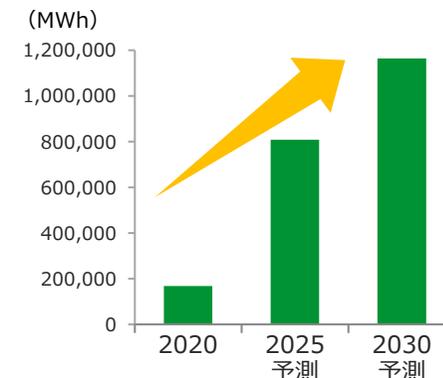


世界の半導体市場



出典：経済産業省「半導体戦略（概略）」  
※縦軸は出荷額を表す

リチウムイオン二次電池の世界市場



出典：矢野経済研究所発表「車載用リチウムイオン電池世界市場に関する調査」

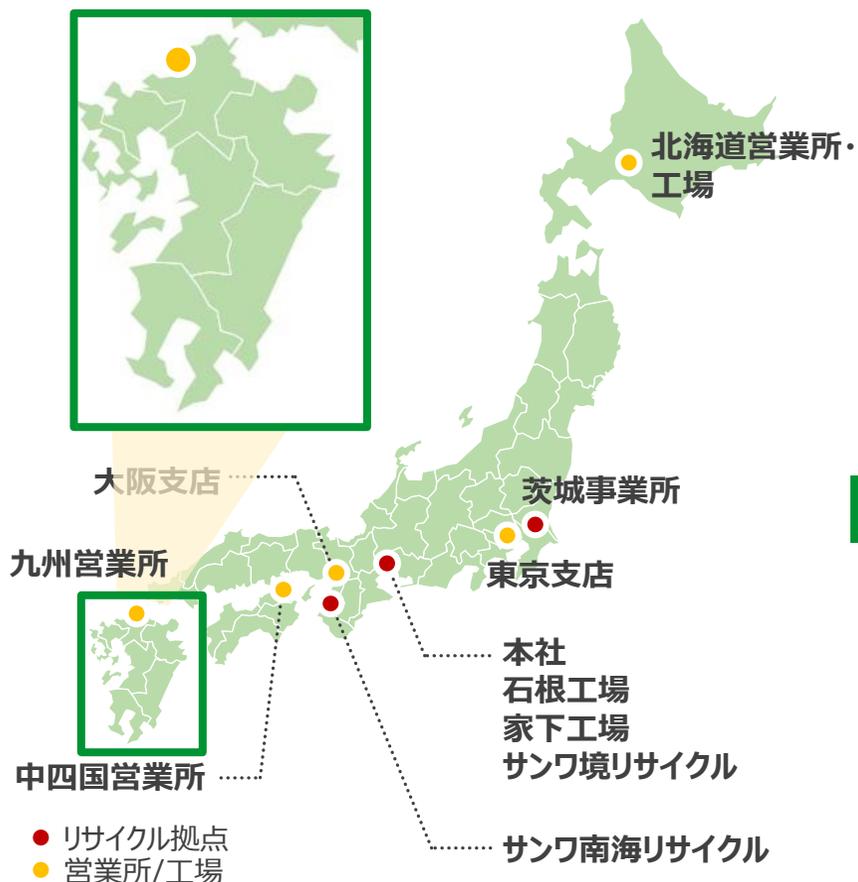
## 本社地区で半導体・電池関連のキャパ増

- 中長期的にエレクトロニクス分野のマーケットは確実に拡大
- 半導体微細化で、さらに品質厳格化が進む
- 現時点で再生材の利用は限定的だが、今後は前向き検討が進む
- 生産能力UPとともに、品質レベル向上が必要

⇒ **成長が期待できる業界に対し、さらなる設備増設と品質向上のための研究開発を積極的に進める**

- グランドビジョン2030に向けた次期大型投資の準備
- 1案件あたり数十億円規模の投資を複数計画していく

## 九州地区



- 九州の半導体関連の設備投資に関する試算

半導体関連企業の設備投資額 **4,939億円**（2022年～2024年の平均）  
**1年あたりの投資額：約5,000億円**

### 九州で計画・実施されている半導体関連企業の設備投資

JASM/富士フイルムエレクトロマテリアルズ/京セラ/東京応化工業/  
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング/SUMCO/三菱電機/住友ベークライト/  
ローム・アポロ/東京エレクトロン/SCREEN SPE サービス 等

（出典）日本銀行福岡支店「BOJ Reports & Research Papers」より抜粋

## 九州等の成長エリアにおけるリユース・リサイクル

- 九州地区は半導体関連の工場建設・投資が進む
  - 有機/無機化学品の需要が増えていく見通し
  - 産業廃棄物の処分業者は存在する一方、マテリアルリサイクル競合先は少ない状況
- ⇒ **成長が期待できる地域での新たな工場拠点を具体的な建設計画を早期に進める**

## ① リサイクルメーカーとしてサステナブルを推進

- ・サステナブルを推進する技術の強化
- ・対応能力の拡充



## ② 成長市場への注力

- ・半導体/電池市場への原料供給・リサイクルニーズ対応
- ・ESGニーズへの対応



## ③ 新事業の創出

- ・工場・ラインの解体作業への対応
- ・農業事業の事業体制整備
- ・金属事業の拡充



持続的な成長戦略



## ④ 生産性向上、働きがいの醸成

- ・ROIC経営の推進
- ・人的資本の強化
- ・スキル人材の育成



## ⑤ ESG対応により企業価値向上

- ・非財務情報の強化
- ・働きやすい環境の整備
- ・理念、思いの共有



成長のための基盤づくり

【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

## 三和油化工業株式会社

TEL 0566-35-3021（経営管理部）

URL <https://sanwayuka.co.jp/>

本資料に記載されている、将来の業績に関する計画、見通し、戦略などは現在入手可能な情報に基づき判断したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。

実際の業績は、様々な重要な要素により、大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。